

株式会社 GSDA-JAPAN

令和 7 年度 GSDA-JAPAN 介護職員初任者研修シラバス

- ・研修カリキュラム・スケジュール
- ・講師一覧
- ・科目別シラバス・特徴

研修カリキュラム・スケジュール

研修日程表（研修課程：初任者研修）

研修形式： 通学形式 在宅形式

事業所名： GSDA多治見事務所

実施回： 第 1回 研修実施期間： 令和7年12月23日～令和8年3月1日

研修会場： 岐阜県多治見市太平町4丁目60-1-23 ファインコール91 T-3

日程	時間	時間 数 細目 番号	項目名(科目の細目)	実施 方法	講師氏名	変更
12/23(火)	9:00 ~ 19:00	3	1-1 多様なサービスの理解	講義	西村幸一	
		3	1-2 介護職の仕事内容や働く現場の理解	講義	西村幸一	
		3	2-1 人権と尊厳を支える介護	講義	西村幸一	
12/25(木)	9:00 ~ 19:00	1	2-1 人権と尊厳を支える介護	講義	西村幸一	
		5	2-2 自立に向けた介護	講義	西村幸一	
		2	3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携	講義	西村幸一	
		1	3-2 介護職の職業倫理	講義	西村幸一	
12/30(火)	9:00 ~ 19:00	2	3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント	講義	山口真未	
		1	3-4 介護職の安全	講義	山口真未	
		3	4-1 介護保険制度	講義	山口真未	
		3	4-2 医療との連携とリハビリテーション	講義	山口真未	
1/6(火)	9:00 ~ 19:00	3	4-3 障害者自立支援制度およびその他制度	講義	山口真未	
		3	5-1 介護におけるコミュニケーション	講義	山口真未	
		3	5-2 介護におけるチームのコミュニケーション	講義	菅沼俊邦	
1/8(木)	9:00 ~ 19:00	3	6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常	講義	長野正美	
		3	6-2 高齢者と健康	講義	長野正美	
		1	7-1 認知症を取り巻く状況	講義	菅沼俊邦	
		2	7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	講義	長野正美	
1/13(火)	9:00 ~ 19:00	1	7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	講義	菅沼俊邦	
		2	7-4 家族への支援	講義	菅沼俊邦	
		1	8-1 障害の基礎的理解	講義	菅沼俊邦	
		1	8-2 障害の医学的侧面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	講義	長野正美	
		1	8-3 家族の心理、かかわり支援の理解	講義	菅沼俊邦	
		2	9-1 介護の基本的な考え方	講義	福永涼子	
		1	9-2 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	講義	福永涼子	
1/15(木)	9:00 ~ 19:00	3	9-2 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	講義	福永涼子	
		4	9-3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	講義	福永涼子	
		2	9-4 生活と家事	講義	福永涼子	
1/20(火)	9:00 ~ 19:30	2	9-5 快適な居住環境整備と介護	講義	福永涼子	
		3	9-6 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	講義	福永涼子	
		4.5	9-6 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	演習	福永涼子	

日程	時間	時間 数	細目 番号	項目名(科目の細目)	実施 方法	講師氏名	変更
1/22(木)	9:00 ~ 19:00	3	9-7	移動・移乗に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	講義	中村勝弘	
			5	移動・移乗に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	演習	中村勝弘	
			1	食事に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	講義	中村勝弘	
1/27(火)	9:00 ~ 19:00	2	9-8	食事に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	講義	中村勝弘	
			5	食事に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	演習	中村勝弘	
			1	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	講義	中村勝弘	
1/29(木)	9:00 ~ 19:00	2	9-9	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	講義	中村勝弘	
			5	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	演習	中村勝弘	
			2	排泄に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	講義	中村勝弘	
2/3(火)	9:00 ~ 19:00	1	9-10	排泄に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	講義	中村勝弘	
			5	排泄に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	演習	中村勝弘	
			3	睡眠に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	講義	中村勝弘	
2/5(木)	9:00 ~ 19:00	4.5	9-11	睡眠に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	演習	中村勝弘	
			2	死にゆく人に関連したこころとからだのしきみと終末期介護	講義	中村勝弘	
			2.5	介護過程の基礎的理解	講義	曾我忠弘	
2/10(火)	9:00 ~ 19:30	3.5	9-13 介護過程の基礎的理解		講義	曾我忠弘	
			6	9-14 総合生活支援技術演習	講義	曾我忠弘	
2/12(木)	9:00 ~ 19:00	3	10-1 振り返り		講義	曾我忠弘	
			1	10-2 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	講義	曾我忠弘	
計				130 時間			

※ 必要に応じ、適宜行を追加すること。

※ 研修日程等を変更する際は、変更前と変更後の表を添付し、変更欄に「○」を記載するとともに、変更箇所のセル色を変更すること。

講師一覧

様式第1号の7(2)

担当講師一覧（研修課程：介護職員初任者研修）

事業所名：QSDA多治見事務所

講師氏名	講師要件 該当資格	実務経 験期間	現職(勤務先・職種)	実施状況:				
				講師数:				
				7	0	0	0	0
1 中村勝弘	介護福祉士	10年 7月	専業	実施回ごとの担当項目数				
2 曾我忠弘	介護福祉士	10年 5月	AzBeing株式会社 介護付き有料老人ホーム 旭ヶ丘生楽館	第1回	0	0	0	0
3 山口真未	介護福祉士	6年 6月	AzBeing株式会社 多治見生楽館	第2回	6			
4 菅沼俊邦	介護福祉士	12年 3月	医療法人知眞会 介護老人保健施設なでしこ	第3回	4			
5 長野正美	看護師	24年 5月	AzBeing株式会社 党王山生楽館	第4回	6			
6 福永涼子	介護福祉士	12年 6月	医療法人知眞会 住宅型有料老人ホーム ひまわり生楽館	第5回	6			
7 西村幸一	介護福祉士	13年 月	専業		6			
8		年 月						

科目別シラバス・特徴

1、職務の理解（時間：6時間）

目的：介護職員としての職務の内容と社会的役割を理解し、チームの一員として倫理的に行動できるようになる。

- ・介護保険制度を中心とした介護サービスの体系を理解し、各サービスの目的・対象者・提供内容の違いを把握する。
- ・研修課程全体の構成を掴み、全体の理解を促進する。
- ・介護職の具体的な仕事内容と、働く現場（施設・在宅など）の特徴を理解し、チームケアの一員としての役割を自覚する。

（講義内容）

①多様なサービスの理解

- ・介護保険制度の仕組みと目的
- ・介護保険サービス
- ・介護保険外サービス

②介護職の仕事内容や働く現場の理解

- ・居宅サービス・施設サービス・地域密着型サービスの概要
- ・現場職員の体験談等を通して、実際のサービス提供を行う現場のイメージを共有する
- ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の流れを知る。

2、介護における尊厳の保持・自立支援（時間：9時間）

目的：「尊厳の保持」と「自立支援」について理解を深める。

- ・利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生活を支えるための視点と態度を身に付ける。
- ・また、介護を提供する際に必要な視点や、利用者の尊厳のある暮らしを支える考え方を身につける。
- ・尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を理解する。
- ・自立とは何か、介護の予防の考え方を理解する。

（講義内容）

①人権と尊厳を支える介護

- ・利用者の尊厳、権利とは何かを学ぶ。
- ・介護に関する基本的な視点、態度（ICF、QOL、ノーマライゼーション）について学ぶ。
- ・利用者の権利を擁護するための制度、法律について学ぶ。

②自立に向けた支援

- ・自立支援とは何か、介護予防とは何か。

- ・残存能力の活用、意欲を高める支援

3、介護の基本

目的：介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づく。

- ・職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。
- ・介護を必要とする人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることが出来る。

(講義内容)

①介護職の役割、専門性と多職種との連携

- ・介護環境の特徴（施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など）を学ぶ。
- ・専門職である介護にはなにが求められているかを学ぶ
- ・多職種連携の目的とは何か、利用者支援の専門職を知り、目的を理解する

②介護職の職業倫理

- ・介護職が持つべき職業倫理を学ぶ
- ・倫理綱領を理解する。

③介護における安全の確保とリスクマネジメント

- ・利用者の安全と生活の質を維持するために、介護現場におけるリスクマネジメントの基本的な考え方と実践的な対応を学ぶ。
- ・多職種および事業所内の職員が連携し、利用者の安全を確保するためのチームケアの体制と連携方法を理解する。

④介護職の安全

- ・介護業務の特性を理解し、心身の健康を維持するための自己管理の重要性を学ぶ。
- ・護職に多く見られる身体的負担や心理的ストレス、そこから生じる不調や疾患の傾向を理解する。
- ・日常業務の中で実践できる健康維持の方法や、病気・障害を予防するための具体的な対策を学ぶ。

4、介護・福祉サービスの理解と医療との連携

目的：介護保険制度、障害福祉制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について理解する。

(講義内容)

①介護保険制度

- ・介護保険制度が設けられた社会的背景を踏まえ、その目的と現在の制度の動きについて理解する。
- ・介護保険制度の構成要素、サービス提供の流れ、制度の基本的な仕組みを学ぶ。
- ・保険者、事業者など、介護保険制度に関わる各組織の役割を理解し、制度を支える財政の仕組みを学ぶ。

②医療との連携とリハビリテーション

- ・介護職が関わる医療的ケアの範囲や位置づけ、その制度的な経過について学ぶ。

- ・介護職と看護職がそれぞれの立場で担う役割を整理し、連携によって支援の質を高める方法を理解する。

- ・利用者の自立支援を目的としたリハビリテーションの基本理念と、その考え方を学ぶ。

③障害者自立支援制度およびその他制度

- ・障害のとらえ方の変化や制度の発展の経過をふまえ、障害者福祉制度における障害の基本的な概念を理解する。

- ・障害者総合支援法を中心とした制度の構成や支援の仕組みを学ぶ。

5、介護におけるコミュニケーション技術

目的：高齢者や障害者とのコミュニケーションは1人1人異なる。そのため、その違いを認識したコミュニケーションを図ることが、介護職として求められており、初任者として取るべき、取るべきではない行動例を理解する。

(講義内容)

①介護におけるコミュニケーション

- ・援助を必要とする人との関係づくりにおいて、コミュニケーションが果たす意義と目的を理解する。

- ・介護実践の中で求められるコミュニケーションの役割と、基本的な技法を学ぶ。

- ・具体的な事例をもとに、利用者の心身の状態や生活状況に合わせた適切なコミュニケーション方法を理解する。

②介護におけるチームのコミュニケーション

- ・介護記録の目的と役割を理解し、適切に記録を行うための基本的な書き方や注意点を学ぶ。

- ・チームケアにおける報告・連絡・相談の重要性を理解し、円滑な情報共有のための具体的な実践方法を学ぶ。

- ・チーム内の連携を強化するための会議の目的と役割を理解し、効果的な運営方法や進行の基本を学ぶ。

6、老化に伴うこころとからだの変化と日常

目的：加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解し、継続的に学習を進めるべき事項を理解する。

(講義内容)

①老年期の発達と老化とともに生じる心身の変化の特徴

- ・老年期の概念や高齢者の定義を学び、加齢に関する基本的な理解を深める。

- ・老化に伴う心理的変化や行動の特徴には個人差があることを理解し、その多様性を学ぶ。

- ・家族関係や社会的つながりなど、社会環境の変化が高齢者の心理や行動に及ぼす影響を理解する。

- ・身体機能の低下や感覚の変化など、老化による身体的变化とその生活への影響を学ぶ。

②高齢者と健康

- ・高齢者にみられる代表的な症状や訴えの背景にある疾病を理解し、その特徴を学ぶ。
- ・高齢者に多くみられる疾患の原因と特徴を学び、疾病を持つ高齢者の生活支援における留意点を理解する。

7、認知症の理解

目的：介護において、認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準を理解する。

(講義内容)

①認知症を取り巻く状況

- ・認知症という症状に着目するのではなく、個人としての生活や思いを尊重する「その人を中心としたケア」の考え方と意義を理解する。
- ・行動や症状を問題として捉えるのではなく、一人の人として理解し、受けとめながら関わる姿勢を学ぶ。
- ・利用者の残された能力や得意な面に注目し、それを活かした支援を行う考え方を理解する。

②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理

- ・加齢に伴う脳の変化や機能低下のしくみを学び、認知症が生じる主な原因を理解する。
- ・認知症と似た症状を示す他の疾病を取り上げ、その違いや見分け方を理解する。
- ・アルツハイマー型認知症や血管性認知症など、主要な認知症の種類について、その病態の特徴と代表的な症状を学ぶ。

③認知症にともなうこころとからだの変化と日常生活

- ・認知症の症状や行動の特徴を理解し、症状に応じた適切なケアの方法を学ぶ。
- ・認知症の人の行動が生活環境や周囲の関わり方によって変化することを理解し、環境調整の重要性を学ぶ。
- ・認知症の症状にとらわれず、一人の生活者としての尊厳を保ちながら支援する視点を学ぶ。

④家族への支援

- ・家族介護者が抱える負担やストレスの実態を理解し、介護を支えるための休息支援(レスパイト)の必要性を学ぶ。
- ・家族を支援の対象としてだけでなく、介護における協働のパートナーとして捉え、共に支える関係づくりの重要性を理解する。

8、障害の理解

目的：障害の概念と ICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。

(講義内容)

①障害の基礎的理解

- ・障害のとらえ方や意味について学び、個人の問題ではなく社会との関係の中で理解する視点を身につける。
 - ・ICF（国際生活機能分類）の考え方沿って、心身機能・活動・参加の相互関係から障害をとらえる枠組みを理解する。
 - ・障害のある人が地域の中で共に生活することを支える理念として、ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョンの考え方を学ぶ。
- ②障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識
- ・障害の原因となる代表的な疾患やその特徴を学び、障害が生じる仕組みを理解する。
 - ・障害を負うことによる心理的変化や心の過程を理解し、本人が障害を受け入れていく過程について学ぶ。
 - ・障害のある人の生活の実際を理解し、日常生活支援における配慮点や適切な援助のあり方を学ぶ。
- ③家族の心理、かかわり支援の理解
- ・家族支援は、介護の代行にとどまらず、家族の思いや生活全体を支える取り組みであることを理解する
 - ・家族介護者の負担軽減を目的としたレスパイトサービスの現状を踏まえ、日本における今後の課題を学ぶ。

9、こころとからだのしくみと生活支援技術

目的：人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解する。基礎的な一部または全介助等の介護ができる。
尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

(講義内容)

①介護の基本的な考え方

- ・介護の理念や考え方が、時代とともにどのように発展・変化してきたかを理論的な視点から学ぶ。
- ・介護に関わる法律や制度がどのように整備・改正されてきたかを学び、現在の制度の位置づけを理解する。

②介護に関するこころのしくみの基礎的理解

- ・人が学習し、記憶する仕組みの基本を理解し、加齢や環境がそれに及ぼす影響について学ぶ。
- ・感情や意欲の働き、そしてそれらが人の行動や生活意欲にどのように関わるかを学ぶ。
- ・自己概念や生きがいの形成について理解し、老化や障害を受け入れる心理的過程を学ぶ。

③介護に関するからだのしくみの基礎的理解

- ・体内の環境を一定に保つための仕組み（ホメオスタシス）を学び、生命を維持する基本的な働きを理解する。
- ・骨格や関節、筋肉の構造と機能を学び、身体の動きが生じる仕組みを理解する。

- ・中枢神経と末梢神経の構成と役割を学び、情報伝達のしくみを理解する。
- ・感覚器や循環器など主要な器官の構造と機能を学び、身体全体の働きとの関わりを理解する。

④生活と家事

- ・日常生活を維持するうえで、家事が果たす役割と重要性を理解する。
- ・家事援助が利用者の自立や生活の質にどのように関わるかを学び、その支援の意義を理解する。
- ・調理・洗濯・掃除などの援助内容を具体的に学び、家事援助の基本的な考え方と方法を理解する。

⑤快適な居住環境整備と介護

- ・安全で快適に暮らすために必要な生活環境の整え方や考え方を理解する。
- ・住環境の温度、照明、動線などを含め、安心して過ごせる室内環境を整える方法を学ぶ。
- ・高齢者や障害のある人が自立して生活するために、住宅改修や福祉用具をどのように活用できるか、その目的と考え方を理解する。

⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

- ・整容の意義を理解し、身だしなみを整えることが心身の健康や生活意欲に与える影響を学ぶ。
- ・利用者の残存能力を生かしながら、自立を促す整容の支援方法と基本技術を習得する。

⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

- ・移動や移乗の意義を理解し、身体機能や心理的要因との関係について学ぶ。
- ・利用者の残存能力を活かし、安全で自立を促す移動・移乗の支援技術を習得する。
- ・加齢や障害などによる心身機能の変化が移動・移乗動作に与える影響を理解する。

⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

- ・食事が心身の健康に果たす役割を理解し、摂食や嚥下の基本的な仕組みを学ぶ。
- ・利用者の残存機能を活かしながら、安全で自立を促す食事介助の方法と技術を習得する。
- ・加齢や疾病による心身機能の変化が、食事動作や摂食・嚥下に与える影響を理解する。

⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

- ・入浴や清潔の保持が心身に与える効果を理解し、体温調節や循環など入浴に関わる身体の仕組みを学ぶ。
- ・利用者の力を活かしながら、安全で快適な入浴を支援するための基本技術を習得する。
- ・加齢や疾病による心身機能の変化が、入浴や清潔保持の動作や安全性に与える影響を理解する。

⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

- ・排泄が心身の健康に果たす役割を理解し、排泄に関わる身体の働きと心理的側面を学ぶ。

- ・利用者の残存能力を生かし、安心して排泄できるよう支援するための基本的な介護技術を習得する。

- ・加齢や疾病などによる心身機能の変化が排泄動作や排泄リズムに与える影響を理解する。

⑪睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

- ・睡眠が心身の健康に果たす役割を理解し、睡眠の仕組みやリズムについて学ぶ。

- ・安全で快適な睡眠を促すための環境づくりや支援方法を学び、実践的な技術を習得する。

- ・加齢や疾患による心身の変化が睡眠の質やリズムに与える影響を理解する。

⑫死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護

- ・人が人生の最終段階を迎える「終末期」について、その意味や捉え方を学ぶ。

- ・終末期にみられる身体機能の変化を理解し、利用者の状態に応じた適切な支援や対応方法を学ぶ。

- ・死を前にした人の心理的な変化や感情の揺れを理解し、その思いを尊重した関わり方を学ぶ。

⑬介護過程の基礎的理解

- ・事例を用いた検討やロールプレイを行い、記録・報告をまとめる。

- ・チームでの意見交換やディスカッションを行う。

⑭総合生活支援技術演習

(演習の目的)

- ・利用者の状態像を踏まえ、生活全体の流れを意識した支援を計画・実施できるようにする。

- ・単一の動作（食事・入浴など）ではなく、「その人の一日の生活」や「一連の支援の流れ」を想定して、これまでに習得した知識・情報・技術の活用、利用者的心身に合わせた介護の提供を行えるようになる。

(演習内容)

例の提示を行い、こころとからだの力が発揮できない要因の分析を行う。

これまで学んだ内容を活用し、適切な支援技術の検討を行い、支援技術演習の後、支援技術の課題を確認する。

10、振り返り

①振り返り

- ・研修を通して学んだこと、今後継続して学んでいくことを振り返る。

- ・専門職として、知識や技術といった根拠をもって介護を行うこと、またその要点をまとめること。

②就業の備えと研修終了後における継続的な研修

- ・これまでに学んだこと、継続的に学んでいくことを、具体的に事業所等における実例をもとに確認すること。

- ・初任者研修の修了後に、介護現場で働く際に更に必要となるであろう技術について検討すること。